

金融論入門 第 1 1 章 国際金融 補遺 (2017 年 8 月)
清水克俊

11.1 節国際金融市場の内容について以下の内容を補遺として修正の上、付け加えます。この修正は 2014 年に行われた国際収支関連統計の IMF 国際収支マニュアル第 6 版に準拠したものへの移行に伴う修正です。179 ページの第二段落から 180 ページ第 2 段落までの部分を以下のように修正します。

国際収支は、

$$\text{国際収支} = \text{経常収支} + \text{資本移転等収支} - \text{金融収支} \quad (11.2)$$

と定義することができる。² **金融収支**は金融取引の収支であり、

$$\text{金融収支} = \text{外国への資金供給} - \text{外国からの資金需要}$$

と定義される。右辺第 1 項は日本からの資金流出（外国からの証券の輸入）を意味する。第 2 項は、外国からの資金流入（外国への証券の輸出）を意味する。したがって、金融収支は自国のネットの資金供給、あるいは対外金融資産の純増を意味している。

経常収支が黒字のとき外国へのネットの資金供給が生じるから、金融収支も黒字となる（対外金融資産が増加する）。逆に経常収支が赤字のとき、外国からのネットの資金需要が生じ、金融収支は赤字となる（対外金融資産が減少する）。国際収支は経常取引と金融取引を合計した収支であるので、恒等的にゼロに等しい。なお、政府の外貨準備は金融収支に含まれる。

2015 年度の日本の経常収支は 18.0 兆円の黒字、金融収支は 23.8 兆円の赤字である。金融収支の内訳は、直接投資 16.0 兆円、証券投資 29.9 兆円、その他投資 -22.1 兆円であった。対外資産残高は、証券投資 423 兆円、その他投資 180 兆円、直接投資 152 兆円、外貨準備 149 兆円であった。対外資産残高は 949 兆円、対外負債残高は 609 兆円、対外純資産は 339 兆円である。

外国に資金を供給したとき自国は貸し手として利子・配当を受け取り、需要したときには利子・配当を支払う。これらは資金貸借額とは別に、自国と外国の間で受取り・支払いが行われる。これら利子・配当などの所得の受取額から支払額を差し引いたものは第一次所得収支として経常収支の中に計上される。

² 経常収支は、貿易・サービス収支、第一次所得収支、第二次所得収支から構成される。金融収支は、直接投資、証券投資、金融派生商品、その他投資、外貨準備から構成される。直接投資は外国で実物資産の購入や工場の建設など株式を取得して現地法人・視点を設立することなどをいう。証券投資は、株式や債券などの購入をいう。その他投資は、貸付や貿易信用、現預金の取得をいう。